

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子めぐりさわ保育園
施設所在地	東京都世田谷区千歳台4-14-1
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

からだ のぼりたいけれどまだのぼれない

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

毎年1歳児クラスは環境に慣れてくると、棚や机に登っている姿があった。昨年度はその姿から作業療法士の定金先生に感覚統合について教えてもらいながら1歳児クラスの子どもたちに必要な環境を整えた。今年度の1歳児クラスの子どもたちは棚や机に登りたそうに片足をあげているものの、登れない様子があった。登りたいけど登れない子どもたちに必要な身体の動きは何か、そのために必要な環境は何かを考えていくことにした。

## 2. 活動スケジュール

4,5月 登れない理由は環境の高さにあるのではと考え、もともとあったままごとテーブルに登ろうとする姿が増えてきたので、その高さの台を用意した。高さが合うと繰り返し登る姿が見られるようになってきた。

6月台に上れる台が出来たことで、棚に足をかけて登ろうとする姿が見られるようになってきたので、園にあるマットを使用し足も使って登れる環境を作ってみた。

7/30 定金先生と一緒に子どもたちの姿を見てみると、「身体の軸を育てる」「上半身を強くする」ことが必要であることが分かった。そのためには背伸びやハイハイの遊びを充実させていくこととした。

8,9月 トンネルや築山登り、リズム遊びなどハイハイの動き、ボールやガムテープの芯をつるしたり接着したものにちょっと背伸びをして掴む遊びを繰り返し楽しむ。

9/11 定金先生のオンライン研修受講。重力に抗うことで、身体の軸が育つことを学ぶ。

9/30 園庭でも遊べる環境を整えた。昨年購入した鉄棒よりも低いものを用意し、ぶら下がりを楽しめる環境を整えた。

10月 築山を増やし、アップダウンを楽しめる環境を用意した。

11/8 保護者共有会 園児保護者をお招きし、定金先生も交え、今年度設定した環境の中で保護者にも子どもたちの遊びを見学いただく。(当日は4家庭の保護者が参加)

2月 定金先生による振り返り

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

カラーマット

鉄棒

砂

築山用保護シート

スクリーン

株式会社ここん 定金先生の巡回にかかる講師料

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

【登りたいけど登れない】1.昨年度、用意した登る環境で今年の1歳児が遊べていないと観察。

【登れる環境を模索する】2.高さ25cmほどのままごとのテーブルに登ろうとする姿があったので、ままごとのテーブルと同じ高さの台を用意して登れる環境を模索する。

【成長に併せて環境を変化させる】3.45cmの高さの棚に足を掛ける姿が見られるようになってきたので、昨年度学んだ感覚統合理論からマットを使った遊び(不安定な場所を歩いたり、山を作って手足を使う)環境を整えるなど、成長にあわせて環境を変化させた。

【定金先生による子ども評価をもとに新しい運動遊びを加える】4.定金先生に転びやすい、ふらふら歩く姿が見られることをお伝えし、頭を支えバランスを育てる、上半身(首からお尻まで)の筋力を育てる必要があると教えていただいた。身体の軸を育て、重力に抗う力を育てるための遊びとして、さまざまなトンネルを用意したり、引き続きマットの山を作ったり、ボールを少し高い位置で粘着しちょっとの背伸びで届くような遊びのアドバイスをいただく。

【定金先生のオンライン研修】5.「身体の軸の育ちを支える」と題して研修をスタッフ全員で学ぶ。

【学んだことを活かし、室内と戸外(園庭)の環境を整える】

6.戸外でも体の軸を育てることが出来るよう、築山を二子山にしてアップダウンを楽しめるようにする。昨年度購入した鉄棒よりも低い鉄棒を用意することでぶら下がりを存分に楽しめる環境を用意する。室内では定金先生にいただいたアドバイスをもとに子どもたちの興味があるものを部屋のいたるところに掲示し、そこまで行ってみたいと感じられるようにしたり、触ってみたいと感じられるような乗り物やキラキラの折り紙などを使用してみる。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【登りたいけど登れない】1.ままごとテーブルに体重をかけて足を挙げている姿があり、「あっちに登ってみたいら？」と登るコーナーに誘うものの、近くまで行くが台に登る姿は少ない。

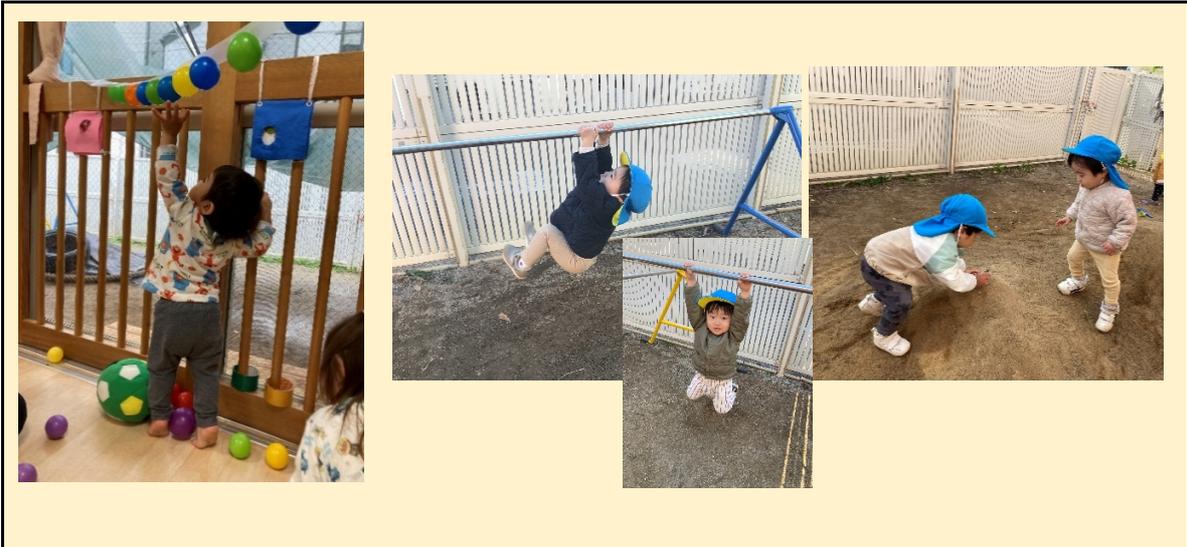
【登れる環境を模索する】2.ままごとのテーブルと同じ高さの台を用意すると、台に体重をぐっとかけて腕の力で登ろうとする姿が多数見られるようになる。

【成長に合わせ環境を変化させる】3.マットの山に足だけで登ろうとする姿があったので、大人が手を使って登って遊び始めると、子どもたちは真似をして、手をついて登る姿が見られるようになってきた。手をつく必要がある高さの山に登ることは子どもたちにとって達成感を感じるようで、繰り返しチャレンジする姿があった。

【定金先生による子ども評価をもとに新しい運動遊びを加える】4.背伸びや手をつく活動は子どもたちの興味に左右されることがわかった。子どもたちの好きなはたらくるまとボールを高い位置に設定すると、背伸びをしようとする姿が増え、キラキラの折り紙を使用すると、子どもたちの動きは引き出されていく様子があった。

【定金先生によるオンライン研修】5.子どもたちの見えない一人ひとり身体の感覚を共通認識できる学びとなり、スタッフと子どもたちの遊び方に変化が見られる。

【学んだことを活かし、室内と戸外(園庭)の環境を整える】6.戸外では高低差のある二子山にした。自分で登ることが出来そうな高さの山からチャレンジする様子が見えた。まずは手をついて登ってみて、そろりそろりと山を降りていた子どもたちは、登って降りる感覚を掴み始めると、勢いよく降りる感覚を楽しむ姿もあった。鉄棒は大人がぶら下がる姿を見せると、挑戦しようとする姿が増えた。数人が出来るようになり、その姿に大人が大喜びすると、さらにぶら下がってみようとする子どもが増えてきた。自分の意思で自分の体を動かすことが出来る自己効力感を感じ始めた子どもたちに日常的に笑顔も増えた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

①登りたいけど登れない子どもたちの姿として、割り坐でしか座れない、転んでも手が出にくい、歩きたがらない、フラフラと歩く、自分の世界の中において、ぼーっとして、何かをやってみようという意欲が見られない子どもが多いスタートだった。

これらの姿が見られ、身体の軸を育てる、重力に抗う力が必要と学び、その環境はなにかと探求した。

②定金先生に教えていただいたことをいかに日々の生活に取り入れていくかを考え、どんぐりころころの歌に合わせて床に手をつく、呼名確認の時に子どもたちとハイタッチをする、など日常の中で簡単にできる動作を繰り返し行う。両手を前に出す活動を継続することで、転ぶ時に手が前に出るようになってきた。登れるようになったことで、目的なくふらふら歩いていた子どもたちが自らの選択で遊びたい遊びまで歩いていくことが出来るようになった。

③自分の体を自分のものと感じられたり、自分の体を使って動ける楽しさを味わえるようになってきているように感じる。日常の中で継続して活動を行うことが1歳の子供たちの成長と発達に有効だということに気が付いた。また、感覚統合理論を学ぶことで、子どもを理解するための共通言語が身に付いたことで、より深く子ども理解を目指すことが出来るようになった。一人ひとりの子どもに好きな感覚と苦手な感覚があることを知り、それぞれの好きな感覚を見つけようとする働きかけをしようとするクラスになってきている。

④外の世界が見えるようになった子どもたちが、自分の力で登ったりつかんだりすることができるようになった。ただそこにいる子どもたちに回転いすをまわしてあげると覚醒があがり活発に動き回るようになった。集団のなかでも心地よく自分らしく過ごせるよう、一人ひとりの感覚を受けとめていきたい。そのなかで、子どもたちは自己身体感覚や自己効力感を身に付け、自分や人を大切にしたい気持ちを育てていきたい。